

恋文 24(水) 14:25 28(金) 18:15

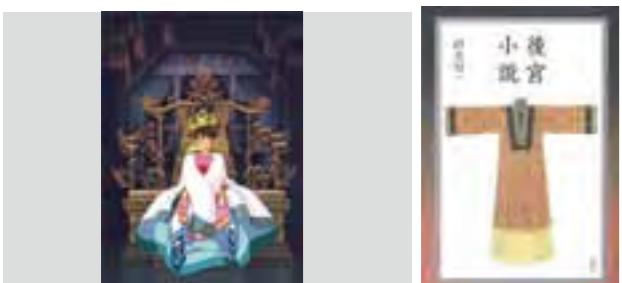
原作:連城三紀彦(「小説新潮」昭和58年8月号)第91回直木賞 【現】新潮文庫「恋文・私の叔父さん」所載
昭和60年/製作:松竹富士・廣済堂映像・ケイ・エンタープライズ/配給:松竹/108分/35ミリ
監督:神代辰巳 出演:萩原健一、倍賞美津子、高橋恵子、小川薫ほか



©1985 松竹株式会社
ショーケンをイメージして書かれた直木賞受賞作を、当のショーケン自身が演じた話題作。余命いくばくもない昔の彼女のもとへ、家庭を捨てて看病に走った夫。残された妻は次第に2人の間に入り込み…複雑な感情を見事に表現した倍賞美津子が女優賞を総なめにした。

雲のように風のように 23(水) 17:15

原作:酒見賢一「後宮小説」(平成元年12月、新潮社より刊行)第1回日本ファンタジーノベル大賞 【現】新潮文庫
平成2年/製作:スタジオびえろ/配給:びえろ/80分/アニメーション/DVD
監督:鳥海永行 キャラクターデザイン/作画監督:近藤勝也 声:佐野量子ほか



©びえろ・NTV
話題のファンタジー小説をTV用スペシャル・アニメ化。途中CMなし、映画レベルのクオリティで製作された、隠れファンの多い名作。「魔女の宅急便」などの近藤勝也がキャラクターデザイン/作画監督で参加。架空の国・素乾国を舞台にした14歳の少女・銀河の大冒険を、銀幕でお楽しみください。

連日トークショー

22(土) 「伽椰子のために」上映後	小栗康平氏 (映画監督)	1981年、宮本輝原作『泥の河』で監督デビュー。国内映画賞を独占する。島尾敏雄原作『死の棘』(1990)でカンヌ映画祭審査員グランプリ受賞。最新作は藤田嗣治を描く『FOUJITA』(2015)。
23(日) 「羅生門」上映後	西村雄一郎氏 (映画評論家)	黒澤明、熊井啓など日本を代表する映画監督と交流をもち、本格評伝を多く発表。『黒澤明 封印された十年』『ふれない男 熊井啓』『殉愛 原節子と小津安二郎』(以上、新潮社刊)など多数。
24(月) 「黒い雨」上映後	天願大介氏 (映画監督、元新潮社編集者、今村昌平長男)	監督・脚本の代表作に『妹と油揚げ』(1990)、『無敵のハンディキャップ』(1993)、『世界で一番美しい夜』(2008)、『テンデラ』(2011)など。共同脚本で参加した父・今村昌平監督の『うなぎ』はカンヌ映画祭最高賞受賞。
25(火) 「橋のない川(第一部)」上映後	辛島美奈氏 (新潮社編集者)	住井すゑを担当。京城・牛久の仕事を通い、未完に終わったシリーズ最終作『橋のない川』第七部、および全七部の新装版などを手がけた。
26(水) 「八甲田山」上映後	宮辺尚氏 (新潮社編集者)	主に文芸畑を歩み、多くの作家を担当。特に新田次郎を長く担当し、現在は新田次郎文学賞の事務局もつとめる。
27(木) 「華麗なる一族」上映後	矢代新一郎氏 (新潮社編集者)	山崎豊子の絶筆『約束の海』を担当。取材や資料収集に奔走、大阪の山崎邸に通いつづけた『最後の山崎担当編集者』。
28(金) 「忍ぶ川」上映後	西村雄一郎氏 (映画評論家)	黒澤明、熊井啓など日本を代表する映画監督と交流をもち、本格評伝を多く発表。『黒澤明 封印された十年』『ふれない男 熊井啓』『殉愛 原節子と小津安二郎』(以上、新潮社刊)など多数。

聞き手:森重良太氏(新潮社編集者/新潮講座事務局)映画関連書を多く担当。本映画祭の企画協力。

たそがれ清兵衛 25(火) 14:35 28(金) 9:45

原作:藤沢周平(「小説新潮」昭和58年9月号) 【現】新潮文庫
平成14年/製作:松竹、日本テレビ、住友商事、博報堂、日販、衛星劇場/配給:松竹/129分/35ミリ
監督:山田洋次 出演:真田広之、宮沢りえ、田中泯、岸恵子ほか



©松竹・日本テレビ・住友商事・博報堂・日販・衛星劇場
山田洋次監督が初めて手がけた本格時代劇。たそがれ時になると帰宅してしまいうめ味な武士の、ある決断を描く。藤沢周平のほかの短編も加え、見事なオリジナル・ストーリーに再構成された。多くの映画賞で各部門賞を独占し、米アカデミー外国語映画賞にもノミネートされた傑作。

黄金を抱いて翔べ 25(火) 20:45 27(木) 16:05

原作:高村薫(平成2年12月、新潮社より刊行)第3回日本推理サスペンス大賞 【現】新潮文庫
平成24年/製作:「黄金を抱いて翔べ」製作委員会/配給:松竹/129分/DCCP
監督:井筒和幸 出演:妻夫木聡、浅野忠信、桐谷健太、チャンミンほか



©2012「黄金を抱いて翔べ」製作委員会
高村薫のデビュー作を、「バッチギ!」の井筒和幸が完全映画化。完全警備の銀行本店地下から金塊を強奪する男たち。浅野忠信と妻夫木聡に東方神起のチャンミンが加わる豪華配役でも話題となった。大阪市内各所で撮影され、いまでもロケ地巡りのファンが絶えないという。

*映画鑑賞の方のみ、上映後引き続きトークショーに参加できます

SCHEDULE 2016・10

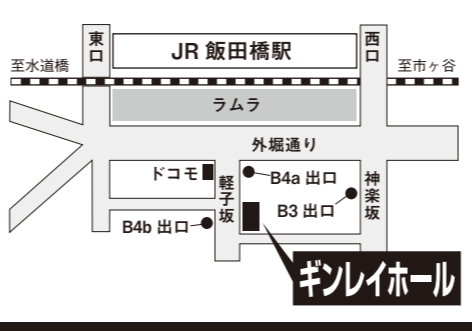


『新潮社から生まれた名作映画たち』

新潮社創業120周年・週刊新潮創刊60周年記念

	9:45	12:00	14:00	16:00	18:00	20:00	22:00
22 土	9:45 柳生武芸帳	11:50 伽椰子のために	トークショー	14:40 特急につぼん	16:25 夕暮まで	18:35 (休憩あり) 華麗なる一族	(終映22:20)
23 日	9:45 雪国	12:15 羅生門 デジタル完全版	トークショー	14:35 けものみち	17:15 雲のように風のように	18:50 (休憩あり) 八甲田山	(終映21:50)
24 月	9:45 雪夫人絵図	11:30 黒い雨	トークショー	14:25 恋文	16:30 柳生武芸帳	18:30 流れる	20:40 橋のない川 (第一部) (終映22:47)
25 火	9:45 潮騒	11:35 橋のない川 (第一部)	トークショー	14:35 たそがれ清兵衛	17:00 特急につぼん	18:40 夕暮まで	20:45 黄金を抱いて翔べ (終映22:54)
26 水	9:45 (休憩あり) 八甲田山	トークショー	13:45 流れる	16:05 黒い雨	18:30 忍ぶ川	20:45 伽椰子のために (終映22:42)	
27 木	9:45 (休憩あり) 華麗なる一族	トークショー	14:20 羅生門 デジタル完全版	16:05 黄金を抱いて翔べ	18:30 潮騒	20:20 けものみち (終映22:40)	
28 金	9:45 たそがれ清兵衛	12:15 忍ぶ川	トークショー	15:15 砂の女	18:15 恋文	20:20 雪国 (終映22:33)	

●チケット
前売券、当日券ともに(1作品ごとに)
一般 600円
会員・学生 300円
(特別興行のためシネマクラブ会員も有料)
○全回入替・自由席・定員制(202席)
○入場整理番号制(各回10分前開場)
○入場整理番号付き前売券は9/30より各上映日前日まで販売。前売券発売の場合当日券なし。
○チケットの交換、払い戻し不可



飯田橋ギンレイホール
〒162-0825東京都新宿区神楽坂2-19
TEL:03-3269-3852
http://www.ginreihall.com
◆JR 飯田橋駅(東口 徒歩4分)
地下鉄有楽町線/南北線/東西線/大江戸線 飯田橋駅(B4a/B4b出口すぐ)

新潮講座のご案内
神楽坂映画祭2016開催記念講座
文学の森、映画の海
今回上映される20作の原作初版本や初出誌などを紹介しながら、原作と映画を徹底解説。文学を映画化するとはどういうことなのか、その違いや魅力を徹底的に語ります。

<講師>西村雄一郎(映画評論家)/森重良太(編集者・聞き手)
【日時】10月22日(土) 16:00~17:30 ※教室開場は30分前です。
【会場】新潮講座/神楽坂教室
〒162-8711 東京都新宿区矢来町109 神楽坂ロースビル3F (東京メトロ東西線「神楽坂」駅2番出口の斜め前、カフェ・ペローチェの上)
【受講料】2,000円(税込) 神楽坂映画祭入場券付き(1回分)
【問い合わせ・予約先】電話 03-3266-5776(新潮講座事務局/月~金10:00~18:00)
受講料は、当日、教室窓口でお支払いください。予約がない場合、入場をお断りすることがあります。

※古い作品のためフィルムの状態が悪い場合がございます。あらかじめご了承ください。



『新潮社から生まれた名作映画たち』

新潮社創業120周年・週刊新潮創刊60周年記念

2016年10月22日(土)~10月28日(金) 飯田橋ギンレイホール



<上映作品>

『羅生門 デジタル完全版』 原作:芥川龍之介/監督:黒澤明	『特急につぼん』 原作:獅子文六/監督:川島雄三	『八甲田山』 原作:新田次郎/監督:森谷司郎
『雪国』 原作:川端康成/監督:豊田四郎	『忍ぶ川』 原作:三浦哲郎/監督:熊井啓	『夕暮まで』 原作:吉行淳之介/監督:黒木和雄
『雪夫人絵図』 原作:舟橋聖一/監督:溝口健二	『けものみち』 原作:松本清張/監督:須川栄三	『恋文』 原作:連城三紀彦/監督:神代辰巳
『潮騒』 原作:三島由紀夫/監督:西河克己	『流れる』 原作:幸田文/監督:成瀬巳喜男	『たそがれ清兵衛』 原作:藤沢周平/監督:山田洋次
『黒い雨』 原作:井伏鱒二/監督:今村昌平	『柳生武芸帳』 原作:五味康祐/監督:稲垣浩	『雲のように風のように』 原作:酒見賢一/監督:鳥海永行
『橋のない川(第一部)』 原作:住井すゑ/監督:今井正	『華麗なる一族』 原作:山崎豊子/監督:山本薩夫	『黄金を抱いて翔べ』 原作:高村薫/監督:井筒和幸
	『伽椰子のために』 原作:李淑成/監督:小栗康平	

主催:飯田橋ギンレイホール 協力:新潮社/新潮講座
配給協力:東宝、松竹、今村プロダクション/林原グループ、KADOKAWA、劇団ひまわり映画製作事務所、新東宝、草月会、独立プロ名画保存会、橋本プロダクション/東宝映画/シナノ企画、びえろ

ご挨拶

今年で3回目を迎える神楽坂映画祭は、同じ神楽坂にある出版社「新潮社」と名画座「ギンレイホール」による文学と映画のコラボレーション企画が実現。新潮社は今年創業120周年、「週刊新潮」は創刊60周年にあたる記念の年。120年といえば映画が生まれたのが1895年パリでリュミエール兄弟が世界で初めて映画の上映を行って今年で121年、映画とほぼ同じ歴史を持つ新潮社から生まれた名作文学は綺羅星のごとく、映画化された名作映画も数多い。この新潮社から生まれた名作文学を映画のスタッフや出演者たちが原作に劣らぬ拮抗する力で映画化した珠玉の名作映画20本をここに集めて一挙上映。映画関係者ほか新潮社から原作の担当編集者を招いて連日トークショーも開催。薫り高い新潮社文学尽くしの怒涛の1週間をご満喫あれ。

▲★ ※書影は単行本初版(他社で単行本化された★印は現在の新潮文庫版)。文中敬称略。
★▲★ 上映作品 神楽坂映画祭2016

羅生門 デジタル完全版

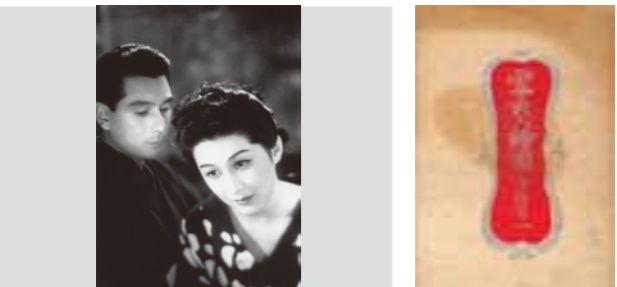
原作:芥川龍之介「藪の中」(「新潮」大正11年1月号) 【現】新潮文庫「地獄変・偷盗」所載
昭和25年/製作:大映/配給:KADOKAWA/88分/D C P
監督:黒澤明 出演:三船敏郎、森雅之、京マチ子、志村喬ほか



短編「藪の中」を中心に、同じ芥川の「羅生門」も加えた黒澤明の傑作。ヴェネツィア国際映画祭でグランプリを獲得し、日本映画の実力を世界中に示した。当時の大映社長・永田雅一は試写会で「わけがわからん」と中座。ところが受賞後は一転、大絶賛して周囲を唖然とさせた。今回はデジタル完全版で、三船の額の汗粒までが明瞭に。

雪夫人絵図

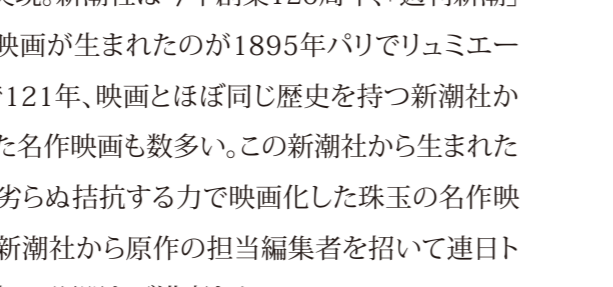
原作:舟橋聖一(「小説新潮」昭和23年1月号～12月号) 【現】新潮オンデマンドブックス
昭和25年/製作:新東宝、滝村プロ/配給:新東宝/88分/ブルーレイ
監督:溝口健二 出演:木暮実千代、久我美子、上原謙、柳永二郎ほか



終戦後3年目に発表され「情欲の絵巻」などと喧伝された問題作を、巨匠・溝口健二が映画化。女好きでサディスティック嗜好のある夫に翻弄されながらも離れられず、悶々とした日々を送る元華族の夫人を、木暮実千代が妖艶に演じる。脚本の舟橋和郎は原作者・舟橋聖一の実弟。

流れる

原作:幸田文(「新潮」昭和30年1月号～12月号)第3回新潮社文学賞、日本芸術院賞 【現】新潮文庫
昭和31年/製作・配給:東宝/116分/35ミリ
監督:成瀬巳喜男 出演:田中絹代、山田五十鈴、高峰秀子、岡田茉莉子ほか



時代と共に消えようとしている柳橋の芸者置屋を舞台に、6大女優が豪華競演。杉村春子が初老の芸者を演じて名演技を見せるほか、戦前の大スター・栗島すみ子が18年ぶりに復帰し、圧倒的貫録を示す。原作者・幸田文は芸者置屋で働いた体験を小説化した本作で、作家としての地位を確立した。

雪国

原作:川端康成(小説新潮」昭和22年10月号、「続雪国」掲載) 【現】新潮文庫
昭和32年/製作・配給:東宝/133分/35ミリ
監督:豊田四郎 出演:岸恵子、池部良、八千草薫、浪花千栄子ほか



昭和10年から各誌で連作短編として断続的に発表。戦後に最終章の改稿が「小説新潮」に掲載され完結した川端文学の代表作。当時39歳の池部良と25歳の岸恵子が絶品の艶つぼさを見せる。「この指が君を覚えていたよ」の名セリフは、原作初出時は伏字だった。

潮騒

原作:三島由紀夫(昭和29年6月、新潮社より書下ろし刊行)第1回新潮社文学賞 【現】新潮文庫
昭和50年/製作:東宝、ホリプロダクション/配給:東宝/93分/35ミリ
監督:西河克己 出演:山口百恵、三浦友和、初井言栄、有島一郎ほか



「一軒のバチンコ屋も、一軒の酒場も、一人の酌婦もなかった」伊勢湾の神島に感動した29歳の三島由紀夫が、同島をモデルに描いた日本版「ダフニスとクロエ」。過去5回映画化されており、これは4作目。16歳で全裸(後姿)を披露した百恵と、禪姿の友和のコンビはいま見ても清冽な初々しさ。

柳生流る

原作:五味康祐(「週刊新潮」昭和31年2月19日創刊号～未完) 【現】文春文庫
昭和32年/製作・配給:東宝/106分/35ミリ
監督:稲垣浩 出演:三船敏郎、鶴田浩二、久我美子、香川京子ほか



五味康祐は新潮社の社外校閲をしながら小説修業をつづけ、「喪神」で芥川賞を受賞。「週刊新潮」創刊号に起用され、本作を連載したところ、空前の剣豪小説ブーム、柳生ブームを巻き起こした。映画は近衛十四郎の東映版が有名だが、今回は原作に忠実な最初の映画化、三船敏郎・鶴田浩二の東宝版で。

橋のない川 (第一部)

原作:住井すゑ(昭和36年9月、新潮社より刊行)。「第二部」以後新潮社より書下ろし刊行) 【現】新潮文庫
昭和44年/製作:ほるぷ映画/配給:独立プロ名画保存会/127分/35ミリ
監督:今井正 出演:北林谷栄、長山藍子、伊藤雄之助ほか



第一部は雑誌「部落」連載を単行本化。以後、平成9年に95歳で逝去するまで、全七部にわたって新潮社から刊行された住井すゑ畢生の大作。大和盆地の小村を舞台に、差別と闘いながら真摯に生きる人々を描く。今井正監督は多くの困難を乗り越え、映画化を実現させた。北林谷栄のド迫力名演にも注目。

忍ぶ川

原作:三浦哲郎(「新潮」昭和35年10月号)第44回芥川賞 【現】新潮文庫
昭和47年/製作:東宝、俳優座/配給:東宝/120分/35ミリ
監督:熊井啓 出演:栗原小巻、加藤剛、信欽三、岩崎加根子ほか



原作を愛する熊井啓監督が、発表以来13年かけて実現にこぎつけた、執念の名作。カラー時代に、あえてモノクロ・スタンダードで撮影された。撮影中、熊井監督は胸を痛み、血を吐きながら現場に通ったという。栗原小巻が原作イメージどおりの志乃を演じ絶賛されたが、当初は吉永小百合主演で企画されていた。

柳生武芸帳

原作:五味康祐(「週刊新潮」昭和31年2月19日創刊号～未完) 【現】文春文庫
昭和32年/製作・配給:東宝/106分/35ミリ
監督:稲垣浩 出演:三船敏郎、鶴田浩二、久我美子、香川京子ほか



五味康祐は新潮社の社外校閲をしながら小説修業をつづけ、「喪神」で芥川賞を受賞。「週刊新潮」創刊号に起用され、本作を連載したところ、空前の剣豪小説ブーム、柳生ブームを巻き起こした。映画は近衛十四郎の東映版が有名だが、今回は原作に忠実な最初の映画化、三船敏郎・鶴田浩二の東宝版で。

特急につぼん

原作:獅子文六「七時間半」(「週刊新潮」昭和35年1月～9月) 【現】ちくま文庫
昭和36年/製作・配給:東宝/85分/35ミリ
監督:川島雄三 出演:フランキー堺、団令子、白川由美、小沢栄太郎ほか



東京～大阪間が「特急こだま」で6時間半だった時代(原作は「特急ちどり」で7時間半)、車内食堂スタッフが巻き起こす恋と笑いの大騒動。冒頭、寝ているフランキーのお腹に乗っている本が原作本なので、お見逃しなく。この原作は、現在、ちくま文庫でリバイバル・ヒット中。いま読んでみても抜群の面白さ!

けものみち

原作:松本清張(「週刊新潮」昭和37年1月～38年12月) 【現】新潮文庫
昭和40年/製作・配給:東宝/140分/35ミリ
監督:須川栄三 出演:池内淳子、池部良、小林桂樹、小沢栄太郎ほか



大人気作家・松本清張による、濡れ場たっぷりのサスペンス。あまりの人気に、連載はまる2年104回もつづき、「週刊新潮」120万部突破の原動力となった。よろめきドラマの女王・池内淳子が、身体を張って生きる女を体当たりで演じる(ただしヌードは吹き替え)。珍しく小林桂樹がせこい悪役を演じるのも見どころ。

砂の女

原作:安部公房(昭和37年6月、新潮社より純文学書下ろし特別作品として刊行) 【現】新潮文庫
昭和39年/製作:勅使河原プロダクション/配給:一般財団法人草月会/147分/35ミリ
監督:勅使河原宏 出演:岡田英次、岸田今日子、三井弘次ほか



砂の穴底に住む不思議な女と、そこから出られなくなった男。世界20か国以上で読まれる現代日本文学の代表作を原作者自ら脚色。米アカデミー外国語映画賞/ミネートのほか、キネ旬第1位、カンヌ映画祭審査員特別賞など内外の映画賞を総なめにした、戦慄を覚える傑作。これが50年以上前の映画とは、とても信じられない。

華麗なる一族

原作:山崎豊子(「週刊新潮」昭和45年3月～47年10月) 【現】新潮文庫
昭和49年/製作:芸苑社/配給:東宝/211分/35ミリ
監督:山本薩夫 出演:佐分利信、仲代達矢、京マチ子、月丘夢路ほか



銀行経営の内幕を徹底取材で描いた山崎豊子の人気小説を映画化。あまりにリアルな設定に、連載中は日本中の銀行マンたちが先を争って読んだという。当時の日本映画俳優陣を総動員したオールスター・キャストで、主人公・万俣大介の「妻妾同食」シーンや、京マチ子50歳のセミヌードも話題となった。

八甲田山

原作:新田次郎「八甲田山死の彷徨」(昭和46年9月、新潮社より書下ろし刊行) 【現】新潮文庫
昭和52年/製作・配給:橋本プロダクション、東宝映画、シナノ企画/169分/35ミリ
監督:森谷司郎 出演:高倉健、北大路欣也、加山雄三、三國連太郎ほか



明治35年、約200名が凍死した陸軍雪中行軍事件を描く超大作。この原作で事件の詳細が初めて一般にも知られるようになった。真冬の八甲田山口ケは凄絶を極め、逃げ出すエキストラが続出。雪嵐のシーンで役者の唇や肌が青ざめているのはメイクのみならず、本物の凍傷寸前なのでご承知おきを。

黒い雨

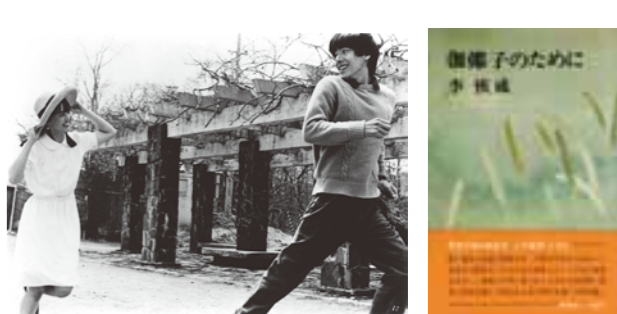
原作:井伏鱒二(「新潮」昭和40年1月号～41年9月号)第19回野間文芸賞 【現】新潮文庫
平成元年/製作・配給:今村プロダクション、林原グループ/123分/35ミリ
監督:今村昌平 出演:田中好子、北村和夫、市原悦子、小沢昭一ほか



映画賞を独占した名作。広島原爆投下後、放射能を含む「黒い雨」を浴びた人たちの日々を美しいモノクロ映像で描く。本作で女優開眼した故田中好子は、この数年後に乳がんを発症し、長年の闘病が始まる。原作は「姪の結婚」の題で連載開始したが、伝説の編集者・斎藤十一により途中から「黒い雨」と改題した。

伽椰子のために

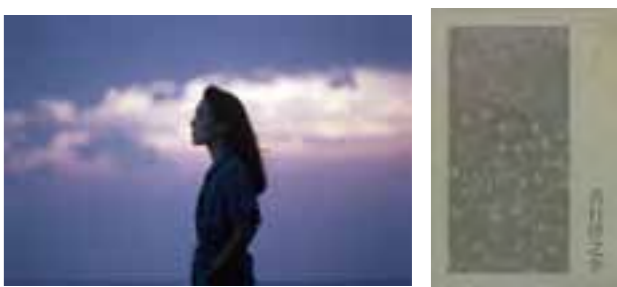
原作:李恢成(「新潮」昭和45年8月号・9月号) 【現】絶版(新潮文庫)
昭和59年/製作・配給:劇団ひまわり映画製作事務所/117分/35ミリ
監督:小栗康平 出演:呉昇一、南果歩、浜村純、加藤武ほか



昭和30年代初頭の北海道と東京を舞台に、在日朝鮮人の若者と日本人少女の儂い恋を描く自伝的小説。小栗康平監督は、「泥の河」同様、かつての日本の風景を見事に再現し、静謐な映像詩に昇華。19歳の南果歩が鮮烈なデビューを飾った。原作者・李恢成は、この後「砧をうつ女」で芥川賞を受賞する。

夕暮まで

原作:吉行淳之介(「新潮」昭和53年5月号、最終章「夕暮まで」掲載)第31回野間文芸賞 【現】新潮文庫
昭和55年/製作:アートセンター/配給:東宝/110分/35ミリ
監督:黒木和雄 出演:桃井かおり、伊丹十三、加賀まりこ、風間杜夫ほか



中年男と若い女性の、ホテルまで行きながら決して最後の一線を超えない奇妙な愛人関係。原作(連作短編集)はベストセラーとなって函入りの豪華限定版までが製作され、「夕暮れ族」なる流行語を生んだ。映画では、当時28歳の桃井かおりが独特な存在感で愛人を演じた。